

AJ

315

vol.

AQUA JOURNAL
Nature Aquarium
Information magazine

JANUARY.2022
100YEN

[特集]

ADA SUIKEI CREATORS FILE

YUSUKE HOMMA / DAISUKE INOUE / KOTA IWAHORI / NARU UCHIDA / DAICHI ARAKI



ADA SUIKEI CREATORS FILE

[SPECIAL FEATURE]

ADA 水景クリエイター

2ヶ月間に渡って開催された「NATURE AQUARIUM EXHIBITION 2021 TOKYO」(以下NAE)。5人の水景クリエイターそれぞれが現在のベストを表現し、継承したナイチャーアクアリウムをさらに広めていくスタート地点となりました。好評のうちに閉幕した今、彼らの心境や今後の目標について訊ねてみたいと思います。

【表紙頁 水景】

作者：荒木 大智

水槽：キューブガーデン W120×D50×H50(cm)



荒木 大智
Daichi Araki

岩堀 康太
Kota Iwahori

本間 裕介
Yusuke Homma

井上 大輔
Daisuke Inoue

内田 成
Naru Uchida

水景制作に挑戦し続けたい 観た人の心に ずっと入つてくるよう

ADA
SUIKEI
CREATORS
01
FILE

YUSUKE HOMMA
本間 裕介

今後も積極的に取り組みたい石組「継承」が大きいテーマとなった本展示において、一番意識したポイントといえばやはり石組レイアウトになります。ネイチャーアクアリウムの中でもオリジナル性が高く、基本にして王道である三尊石組を、現時点での自分のベストとして制作しました。その反響はSNSなどで見ていたのですが、この石組レイアウトに好印象をもってもらえたコメントが多く見かけました。水草のレイアウト水槽としては、細かくつくり込んだ写実的な作風のほうが一般的に受け入れられやすいと思っていたのでこれらの反応については少し意外でした。しかしこれらの激励のおかげで、私が日々感じている石組レイアウトの可能性を再確認することができました。水景としてはとてもシンプルではありますが、そこに秘められた奥深さや自然への憧れやロマンは多くの人に伝わると信じています。石組にまつわる考え方、哲学などを基本に忠実に守

りながら、観た人の心にずっと入つてくるような水景制作に挑戦し続けたいと思います。(P6-7作品掲載)

思い描く新たな展示イメージ

今後の目標としては、長く展示されるネイチャーアクアリウムをつくることを掲げています。これには長期維持される水槽という観点だけでなく、長く愛され多くの人の目の触れる場所に作品として残したいという希望も含まれています。大胆に言わせてもらえば何十年という長い期間に展示される水槽で、できることならば10mを超えるような大型の水景をつくってみたいと思っています。観た人が水中世界に引き込まれ、心を奪われるようなシンプルな石組レイアウトで、命をもつた生き物でありながら芸術的な側面を感じられる、そんなイメージを膨らませています。かなり大それた未来を思い描いていますので、今すぐ実際にてくれるのかといわれるよ

う難いことのほうが多いと思います。しかし、多くの人に水草の美しさを知つてもらい、かつネイチャーアクアリウムのファンになつてもらうために自分が取り組むべきテーマであるという熱意をもっています。

水草を身近に感じてもらうための活動

私は他のクリエイターと比べて歳が一回り近く離れていて、年齢的にも今の子供たちの目線が気になります。さまざまな情報が飛び交う世の中ですが、生き物の美しさに目を向けたり、自然の生態系や地球全体の環境について考えたりする機会を少しだけ多くもって欲しいと思っています。以前にドイツを訪れたときに、アクアリウムの展示会に小学生が授業の一環として見学に来ていきました。話している詳細まではわかりませんでしたが、ホビーとしてのアクアリウムの魅力だけではなく、それに携わる人が世界中にいることも理解しているんだなと感じ取れたことがあります。人々を夢にする趣味があり、夢になつた人がそれを生業としてさらに魅力を広げようと活動していることを、とにかく多くの人に知つてもらいたいと思います。またここ数年ですが、地域の小学生や園児にネイチャーアクアリウムについて紹介する機会が増えました。NAギャラリーの水槽や、ADA本社を囲む森についてわかりやすいよ

うに説明しています。幼少期に見て感動したものについては、大人になってもそれが原動力になると思っているので、説明もしっかりと丁寧に伝わるようにと心がけています。このような課外活動を通して水草や魚をもっと身近に感じてもらい、自然の大切さを実感して次世代の興味関心や情熱が生まれてくれればとてもうれしく思います。



地域の小学生にネイチャーアクアリウムについて説明する。純粋な興味関心にこちらが刺激されることもある。

「風薫る水辺」

この水景では、細く美しい線の流木をダイナミックに使い、テープ状の水草の群落を点在させることで清々しさを表現している。流木の造形美が消えてしまわないように、テープ状の水草は線の細いソーシャルフェザーダスターを選択した。また、タデ科の水草を合わせて使うことで、和の趣を加えている。清々しい水草の群落の間を魚たちが気持ち良さげに泳ぐ様子は、日本の初夏の水辺を連想させる。

水槽 キューブガーデン W180×D60×H60(cm)

水草	ソーシャルフェザーダスター	Eriocaulon sp.
	ホソバノウナギツカミ	Persicaria hastato-auriculata
	ポリゴナムsp. "Pink"	Polygonum sp. "Pink"
	エレオカリス・ビビバラ	Eleocharis vivipara
	ジャイアントサジタリア	Sagittaria graminea
魚種	メラノタエニア・サフレンシス	Melanotaenia sahulensis
	オトシンクルス	Otocinclus sp.
	ヤマトヌマエビ	Caridina multidentata



ADA
SUIKEI
CREATORS

YUSUKE HOMMA



【初夏の石景】天野 尚の真骨頂でもあった石組レイアウトの世界は奥が深く、特に川石は形がシンプルなだけに配石が難しい。配石は水の流れを意識することが大切だが、考え過ぎると作戦的な配石になりやすく、石に勢いがなくなってしまう。「一気呵成に石を組むことにより、自然の流れや勢いが石に転ずる」というのが、天野の教えでもあった。石と語り、寄り添い、石が持つパワーを感じながら、何とか納得のいく作品に仕上がった。

水槽 キューブガーデン W180×D60×H60(cm)

水草 グロッソステイグマ
エキノドルス・テネルス
ヘアグラス
エレオカリス・ビビバラ

Glossostigma elatinoides
Echinodorus tenellus
Eleocharis acicularis
Eleocharis vivipara

魚種 バリリウス・バケリ
オトシンクルス
ヤマトヌマエビ
Barilius bakeri
Otocinclus sp.
Caridina multidentata

可能性を追求していく
オリジナル表現を通して、
ネイチャーアクアリウムの新たな

ADA
SUIKEI
CREATORS
02
FILE

DAISUKE INOUE
井上 大輔

マイベスト グリーン・ヘブン

今回NAEのために制作した2水景のうち、「グリーン・ヘブン」は、これまで制作してきたものとはまったく違った観点で生まれた水景になったと思います。水景をつくる際、自然風景からインスピレーションを得るなどさまざまな手法がありますが、最近は想像上の自然をモチーフにしたり、テーマを定めたりしてつくることが多いです。「グリーン・ヘブン」はライトグリーンのシンプルな水草の中に、無数のネオン・テトラが煌めく、空想上の幻想的な自然をテーマにした水景で、後で思い出そうとしたときに明確な形として思い出せないような抽象的な世界観で構成されています。ただ、一般的なネイチャーアクアリウム

とは少し違った方法で制作した水景だったので、管理の面でNAEの開催期間の間、水草の状態を維持できるかという不安はありました。が、それさえクリアできれば必ずいい水景になるという自信はありましたし、この水景をたくさんの人々に見ていただきたいという思いから、NAEで展示することを決めました。(P10-11作品掲載)

自分にしかできないオリジナル表現

私がつくる水景は個性的や奇抜と言われることがよくあります。しかし、あえて奇をへらった表現を目指しているからではなく、強いて言うならば、テーマや考えを最優先にしてつくっている水景が多いことに起因しています。

ると思っています。空想の世界をモチーフにする場合、ネイチャーアクアリウムの基本は踏襲しつつも、構図にお手本がありません。そのため、既出表現の中に埋没していない自分でしかできない表現方法、つまりオリジナ



だれにも予想できない構図でないと、想像は越えられない。

リティにつながっているのだと思います。「グリーン・ヘブン」は一見シンプルに見えますが、イメージを固めるためにかなりの時間とエネルギーを要しています。構想の段階で多数のアイデアやそれを構成するさまざまな要素をまず出せるだけ出して、その中から引き算してシンプルにまとめました。そんなアイデアを次々生み出せるようになるのが今の目標です。それと、私の中で構図の段階で周囲のスタッフに心配されたほうが、最終的にいい水景になるというシンクスがあります(笑)。心配されるということは完成像を容易に想像できないからであって、結果的にいい意味で期待している想像を裏切れるからだと考えています。自分にしかできないオリジナ

ル表現を通して、ネイチャーアクアリウムの新たな可能性を感じもらいたいです。

動画とネイチャーアクアリウムとの未来

今回のNAEでは、すみだ水族館の自然水景の水中動画や、レイアウト制作のダイジェスト動画を制作しました。普段はADAViewなどの各媒体で動画の撮影や制作をしていますが、近年、動画自体の需要も高まっていることもあり、より可能性を感じています。4K・8Kモニター、プロジェクトションマッピングなど動画技術の進化による表現の幅も広がっていますし、それはネイチャーアクアリウムの可能性を引き出すことにもつながるんじゃないかなって思っています。

「パーフェクト・レインボー」

自分の好きな水草を集めて、それぞれの水草の個性を生かすように配植することを優先し、細かなレイアウト構成はあえて気にしなかった。初めは散漫な印象であったが制作から1年以上が経過した現時点では、水景に自然なまとまりが備わってきたように思える。水草たち自らの生長によって形成された景観には、人為的な管理だけでは表現できない自然感が生まれる。これもまたネイチャーアクアリウムの醍醐味と言えるだろう。

水槽 キューブガーデン W120×D50×H50(cm)

水草 コブラグラス
ジャイアントサジタリア
エイクホルニア・アズレア
アヌビアス・ハスティフォリア
ルドヴィジア・スマエロカルバ
ネオンドワーフ・レインボー
オトシンクルス
ヤマトヌマエビ

Litocarpis novae-zelandiae
Sagittaria graminea
Eichhornia azurea
Anubias hastifolia
Ludwigia sphaerocarpa
Melanotaenia praecox
Otocinclus sp.
Caridina multidentata



ADA

SUIKEI

CREATORS

DAISUKE INOUE



【グリーン・ヘブン】暗闇の中、無数のきらめく光を追っていくと、そこには浮遊感のある幻想的な水中の森が広がっていた。そんなストーリーを思い描いて制作した水景。観賞時にはライトグリーンの丸葉がふわふわと漂う水草の印象が強いと思うが、後で思い出そうとしたときに明確な形として思い出せないような曖昧な印象表現を狙った。キラキラと輝くネオン・テトラが幻想的な世界を彩り、ファンタジーの世界に誘っているかのようにも見える。

水槽 キューブガーデン W180×D60×H60(cm)

水草 アマゾンチドメグサ *Hydrocotyle leucocephala*
オーストラリアン・ドワーフヒドロコティレ *Hydrocotyle tripartita*
カルダミネ・リラタ *Cardamine lyrata*
アンブリア *Limnophila sessiliflora*
アマゾン・フロッグビット *Limnobium laevigatum*

魚種 ネオン・テトラ *Paracheirodon innesi*
オトシンクルス *Otocinclus sp.*
ヤマトスマエビ *Caridina multidentata*

植物が「自然に見える瞬間」を
レイアウトの中で再現する

ADA
SUIKEI
CREATORS

03

FILE
KOTA IWAHORI
岩堀 康太



思い返すと、完成にこぎつけるまでに
さまざまなドラマがあった。



規格外展示の苦悩と新たな野望

今回無事に展示を終えることができましたが、ネイチャータワー 360° の企画において課題がいくつかありました。その中でも頭を悩ませたのが、スケールの大きさを壊さないために 8 個体から構成されるユニットを境目なく見せなければいけない点でした。それまでのウォールをまるで一本の樹幹のように表現するためには、植栽のテクニックだけ

では補えない構造自体の見せ方も工夫が必要です。水槽同士の隙間に専用パーツを設計したり、スポットライトを微調整したりして試行錯誤を重ね、なんとか納得のいく展示作品になりました。この経験から、水草ウォールのような垂直の壁面を使った展示水槽の見せ方に確信を持つことができました。ネイチャータワー 360° は水辺にまつわる植物の多様性を表現した規格外な展示で

したが、野望はまだまだあり、DOOA 製品にフォーカスをあてた空間デザインや、植物を身近に感じてもらうための展示方法など画策しています。

飽くなき植物の世界への好奇心

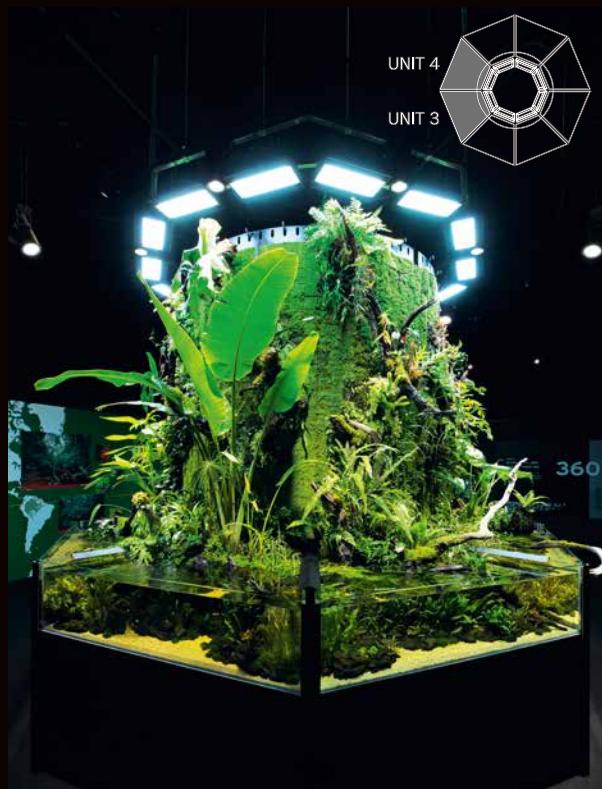
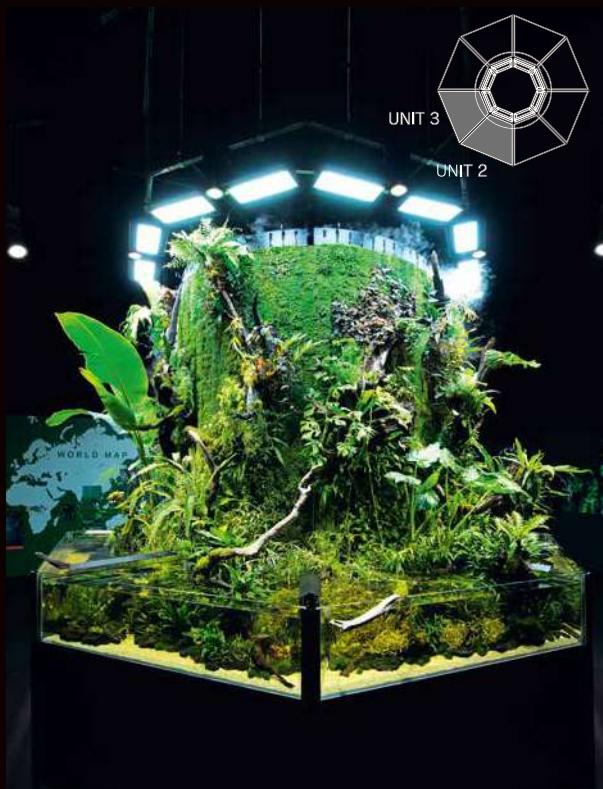
ジャングルプランツが息づく陸上の世界には、水草の世界より多種多様な環境が存在します。そのため、レイアウトに一つ植物を取り入れる際も、その植物をとりまく環境を知ることがとても大事で、私の場合、分布域から自生地の気候、土壤の性質まで徹底的に調べます。環境から植物を考察し、レイアウトや管理方法に反映することで、ガラスの中でも少しでも自然に近い姿で育てたいと考えています。その生長過程で拵むことのできる花も魅力の一つです。そのほかにも、グリーンラボ内に専用のバックヤードを併設し、ADA で今まで扱ってこなかった植物、例えば



レイアウトの幅を広げるためには、
植物の育成研究は欠かせない。

エアープランツやアリ植物など(一部私のコレクションも)を積極的に集めて生育条件を研究しています。DOOA を多くの方に知つてもらうために、あらゆるジャンルの植物を DOOA 製品に取り入れ、レイアウトの幅を広げることに日々ばく進中です。植物の世界への好奇心は尽きません。

「自然に見える瞬間」をレイアウトに
ネイチャーアクアリウムでは自然風景の中に
あるエッセンスを抽象化して水景に落とし込むというプロセスがありますが、私は少し
違つて、ふと足元にあるような自然感や小さな発見を大事にしています。自然界の一部を
クローズアップした生態そのものが私に
とって、自然への憧れを感じる瞬間であり、
創作活動の原動力になっています。だからこそ
私は作品をつくるうえで、フィールドに赴
き感じた「自然に見える瞬間」をレイアウト
の中で再現することを常に意識しています。
このスタイルは植物自身の美しさを楽しむ
DOOA のコンセプトにもつながっており、私
の性分にもピッタリだと思っています。今後
も「自然に見える瞬間」をモットーに、植物の
生態にクローズアップした作品を通して、奥
深い植物の魅力や自由な楽しみ方を発信し
ていきたいと思います。



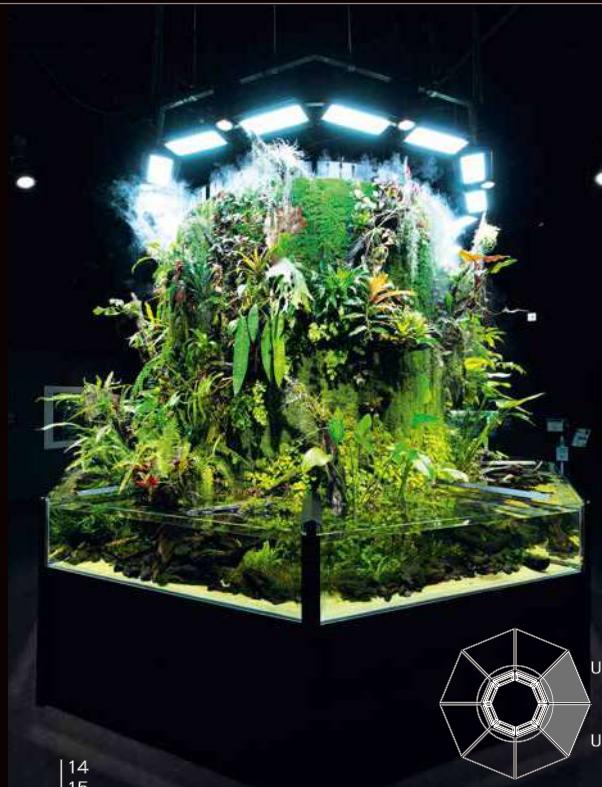
NATURE TOWER 360° ネイチャータワー360°

【水辺を巡る】「地球規模で巡る水、それはまるで旅をしているかのよう。ときに雲から雨となり大地に降り注ぎ、霧となり森を包み、川となり海を目指す。その旅路では、さまざまな木々や草花、水草や魚に出会うこともあるだろう。」このネイチャータワー360°は、

そんな「水の旅」を一つのテーマとし、降り注ぐ霧やスコール、水の循環はランダム制御とされています。8つのセクションからなるレイアウトは、熱帯地域の水辺(エコトーン)をイメージしているため、植生範囲は水中だけでなく、抽水、陸生、樹着生の植物にまで及びます。

タワーを周回すると、各セクションで違った植物相の景観が楽しめるほか、葉が数ミリしかないミミカキグサから巨大な葉を広げるタビビトノキまで多種多様な植物を発見しながら観察できるようになっています。

全高：3.5m 周囲：13m 制作：岩堀 康太



ADA SUIKEI CREATORS

FILE
04

NARU UCHIDA
内田 成

常に水景と向きあう
維持するために、
最高のコンディションを



感動は、裏側のひたむきな管理があつてこそそのものと情熱を注ぐ。

「支え岩」岩礁帯で見られる立岩や洞穴をイメージして制作した水景。石の質感や形状を見極め、2つの石が寄り添うようにしっかりと一つに組み、遠近感が生まれるよう3群に分けて配石した。水草が生えそろった中で、石が互いに寄り掛かり支え合っている様子には安定感があり、この水景ならではの表現ができたと思う。そんな石の合間に颶爽と泳ぐ魚たちも心地良さそうだ。

水槽 キューブガーデン W120×D50×H50(cm)

水草	リシア パールグラス ニューラージ・パールグラス エキノドルス・テネルス インティアン・クラスラ ハイエゾブリコン・アマパエンシス オトシンクルス ヤマトヌマエビ	<i>Riccia fluitans</i> <i>Hemianthus micranthemooides</i> <i>Micranthemum sp.</i> <i>Echinodorus tenellus</i> <i>Microcarpa minima</i> <i>Hypseobrycon amapaensis</i> <i>Otocinclus sp.</i> <i>Caridina multidentata</i>
----	--	---



水の中の紅葉は東京で見頃を迎えたNAEはちょうど9月開催だったので、秋を題材にした水景をつくろうと思い、1年半ほど前に制作した紅葉をモチーフにした90cm規格の水景を、180cmにスケールアップする形で制作しました。八海石やアクアグラベル、川石を使用し、「和」をサブテーマとして構図は凹型と決めましたが180cm水槽になると、パノラマ比率になるので図屏風の構図バランスを参考にしました。また、すみだ水族館での管理スタッフとしての経験から、東京の水質がミネラル分を適度に含み、赤い有茎草を美しく育てるに向いていることがわかつていたので、最高の状態で「水の中

の紅葉」をお届けできるという自信はありました。有茎草は思惑通り時間の経過とともに真っ赤に染まり、晚秋の訪れを教えてくれました。(P18-19作品掲載)

水景維持に情熱を注ぐ

今回、NAE会場に常駐する管理スタッフのリーダーを務め、お客様に見ていただく水景を最高のコンディションで維持することに注力しました。また水草育成器具メーカーとして、器具の魅力を認識してもらうことも大切だと考えました。器具がきれいでないと、水景の本質ではない箇所に目がいってしまうので、器具の念入りなメンテナンスと配置の微調整、水槽の拭き上げなどを開場までに毎日徹底的に行いました。管理面では、開場時間と管理の都合上、照明の点灯時間が11時間と通常より長かったので、藻類の発生が一番頭を悩ませました。最初は照明の位置を上げて対応しようと考えましたが、照度が下がった分、次は水草の生長が著しく低下することが予想されました。水草のもつ美しさや生命力を見ていただくイベントですので、それでは本末転倒になってしまいます。普段

の業務の経験から、藻類の抑制と水草の生長が釣り合った照明の高さを見極め、またメンテナンスフィッシュの追加により、なんとか水景のバランスを維持しました。実は、水槽ごとに照明の高さを微妙に変えていました。現場では常に水景と向きあって、アクションで臨機応変に対応できることが大切です。会期中は解説スタッフとして会場に立つ機会もありましたが、これまでコロナ禍で聞けなったお客様の感想を直接お聞きすることができて純粋にうれしかったですし、仕事のモチベーションアップにもなりました。

制作意図を反映した管理

私は水景クリエイターとして、ネイチャーアクアリウムの魅力を広めたいという思いがありますが、普段はネイチャーアクアリウム部の一員として水景のメンテナンスの業務をメインに励んでいます。今回の水景メンテナンスでは、制作者の意図を反映できるように水景クリエイターとしての視点から考えて管理スケジュールを計画する必要がありました。さらに制作者が思い描く完成水景に近づけるためには、ヒアリングは必須で、特に

「エキノドルス・パラダイス」は荒木さんとディテール表現の確認まで綿密にやり取りしました。逆に井上さんの「グリーン・ヘブン」は細かい部分は任せてもらいました。あのアマゾンチドメグサは一見、無秩序に漂つていて見えますが、ランダムな中にも規則性や統一感をもたせるトリングング管理が必要で、このバランス感覚はクリエイターの活動で培った感性が生きていたと思います。

自然から学ぶ

ネイチャーアクアリウムは自然をそのまま模写するのではなく、自分の感性で抽象化することで、その人のストーリーや内面もアウトプットされるところが、他にはない魅力だと思います。最近は、「支え岩」のように2つの自然の景観を融合させる手法をよく使っていて、遊び心ある自分らしい水景をつくるという意味で、手ごたえを感じています。私がつくる水景はよく「癒される」「やさしい」という声をいただくので、そこも自分らしさだと自己評価しています。これからもアイデアを広げるためにもっと自然へ足を運びたいと思っています。

ADA

SUIKEI

CREATORS

NARU UCHIDA



【水の中の紅葉】赤を基調とした多彩な有茎草を植栽し、屏風絵のようにパノラマ比率で構図骨格を組んだ。その多種多様な有茎草が美しい群生を形成する。錦繡の紅葉のごとく華麗な、まさに「生きた紅葉屏風」といった狙い通りの表現となった。また、手前の流木に苔やシダを多く活着させることでしつとりと落ちていた趣が生まれ、その深緑色の補色効果によって赤の色彩がより際立っている。

水槽 キューブガーデン W180×D60×H60(cm)

水草 ミクロソラム・ナローリーフ *Microsorum sp. 'Narrow Leaf'* 魚種 ラスボラ・ヘテロモルファ
ボルビティス・ヒュドロッティ *Bolbitis heudelotii* チェリーバルブ
オレンジ・ミリオフィラム *Myriophyllum sp.* シザーステール・ラスボラ
ルドウイジア・スーパーレッド *Ludwigia repens 'Super Red'* オトシンクルス
ルドウイジア・グランデュローザ *Ludwigia glandulosa* ヤマトヌマエビ

Trigonostigma heteromorpha
Puntius titteya
Rasbora trilineata
Otocinclus sp.
Caridina multidentata

うまく引き出したい
独特の美しさがもつ
水草それぞれがもつ

ADA
SUIKEI
CREATORS

05

FILE
DAICHI ARAKI
荒木 大智

個々の水草の美しさを感じられる水景
ネイチャーアクアリウムをどう解釈してどう表現するかということは、今回このイベントの一つの焦点だったと考えています。「エキノドルス・パラダイス」では水草本来の美しさを引き出し、水草そのものをキレイと感じもらえることにフォーカスを当てて制作しました。主役はもちろんエキノドルスで、多くの種類を配植してあり、個性ある一つひとつの種類に関心をもってもらいたいという狙いがありました。水槽を離れて全体として観てもらうことも意義のあることですが、水槽ギリギリまで近寄り水草1本1本まで観察してもらえていたらうれしい限りです。水草愛好家がレイアウトに使われている種名にまで言及しているSNSの投稿を見たときにはとても感動しましたし、時間をかけ水草を生長させて仕上げる水景でしたので、その時間経

過に気づき、苦労を共感してもらえたコメントも楽しく読ませてもらいました。

個性的な表現の難しさ

今回は大勢の方に直接見ていただける展示会でしたので、普段NAギャラリーで行う水景制作にはない気づきも多くありました。どの制作においても、ネイチャーアクアリウムの表現の仕方については熟考しているのですが、現在のベストの表現をするという点と、5人いるADA水景クリエイターの中で自分自身の個性を出すという二つの点がうまくかみ合わず、作品についてイメージを固めるのにたいぶ時間がかかりました。簡単に言えば、基本や王道から少し外れたものをつくるないと自分らしさをアピールできないという単純に力不足からくる結果でした。ここは大きな反省点ですので今後の課題となります。

「自然から学ぶ」という意味を自分なりに解釈、理解し、新たなテーマを探求しながら、自分をアップデートしていくたいと思っています。

これからの展望

海外勤務の経験から、現在は海外貿易部に所属しています。まだ英語を勉強中ではありますか、人を介さずに自分の言葉でタイムリーな情報を伝えていくようにしたいと思っています。ADA水景クリエイターが発信する情報は日本語ベースであることが多いので、直接海外のユーザーに伝えることができればそれも自分の持ち味になるのではないかと考えています。また以前に英語でのワークショップを行い、いろいろ学ぶことがありました。レイアウトについての内容以外にも情報を届けたいと考えていて、自分の経験を交えた製品の良さであったり、ADAの何気ない

日常であつたり幅広い話を伝えていきたいと思っています。それはADAのスタッフである以前に、自分はADAのファンという意識がありますので、ユーザーに近い目線で紹介したいという気持ちです。水景制作では、これまで一度も挑戦したことのなかった三尊石組にチャレンジしたいと思います。三尊石組については、やはり何か特別なジャンルという思いがあり、曖昧な考えのまま制作できないという気持ちになっていました。自分の個性を思い巡らせると、基本に忠実なネイチャーアクアリウムをつくりたいという気持ちと、誰も見たことのない水景をつくりたいという気持ちは矛盾せずに両立するべきだと思うようになりました。私は水草が水中での揺らぎたなびく姿、気泡がつく様子、それらの近くを魚が泳ぐ様子など、水中世界全般に心惹かれています。高校生のときに手に入れた『ガラスの中の大

自然』はすでに付箋だらけになり、使い込んだネイチャーアクアリウム・グッズは情熱の根本にあるものを見つめなおすききっかけになっています。今以上に、ネイチャーアクアリウムが広く一般的に認識され、その美しさを大勢の人に見ていただけるように、今後も活動を続けていきたいと思います。また、普及の一環として芸術分野(音楽、映像、華道、現代アートなど)とのコラボレーションも積極的に取り組みたいと思っています。



これらの書籍はレイアウト制作前の気持ちを切り替えるスイッチにもなっています。

「エキノドルス・パラダイス」

多くの熱帯魚や水草の故郷である南米アマゾンは、アクアリストにとって憧れの地であり、広大な熱帯雨林から緑の魔境とも呼ばれる。そんなアマゾンを代表する水草であるエキノドルスの群生と、同じくアマゾンを代表する熱帯魚、エンゼル・フィッシュやカージナル・テトラを泳がせた熱帯のパラダイスを夢見た。いつかは憧れのアマゾンに赴き、感動をそのまま表現した水景を制作してみたい。

水槽 キューブガーデン W180×D60×H60(cm)

水草	エキノドルス・アルゼンチンシス エキノドルス・ジョーヨレッドスター エキノドルス・マヨール エキノドルス・グリーンフレーム エキノドルス・オバクス	<i>Echinodorus argentinensis</i> <i>Echinodorus 'Joyo Red Star'</i> <i>Echinodorus major</i> <i>Echinodorus 'Green Flame'</i> <i>Echinodorus opacus</i>
魚種	エンゼル・フィッシュ カージナル・テトラ ハイフエリコン・スレンダーコペランティ アピストグラマ・ビタエニニアータ アピストグラマ・アガシジ オトシンクルス ヤマトスマエビ	<i>Pterophyllum scalare</i> <i>Paracheirodon axelrodi</i> <i>Hypseobrycon sp.</i> <i>Apistogramma bitaeniata</i> <i>Apistogramma agassizii</i> <i>Otocinclus sp.</i> <i>Caridina multidentata</i>



SUMIDA AQUARIUM Report

Text_Takahito Mizuno

当時世界最大のネイチャーアクアリウムとして誕生したすみだ水族館の「自然水景」も制作から9年が経過しました。
これまであまり語られることがなかった舞台の裏側を連載でお届けします。



すみだ特別展示 自然水景の呼吸

水草の光合成によって生まれた酸素の気泡、これが水槽内を漂い水面に消える様子に癒され、つい水槽を長時間眺めてしまうことがあります。その光合成で生まれた酸素は、目に見える気泡となって私たちを魅了するだけではありません。水槽内に飽和した酸素は、水流を通してろ過槽、底床内の微生物へと行き渡り、輝きを放つ透き通った水をつくり出しているのです。このような自然水景があらわす生態系の仕組みについてより多くの方に知ってもらうため、すみだ水族館では、酸素と二酸化炭素のサイクルに焦点を当て、「呼吸でめぐる、水族館」と題した企画展を12月9日より開催しています。このサイクルを

より身近に感じていただくために120cm水槽を始めとしたネイチャーアクアリウムとパルダリウム水槽が特別展示されるほか、ワークショップなどのイベントが予定されています（詳細は次ページに掲載）。本稿執筆現在、企画展と年末年始を前に、7メートル水槽の下草や、有茎草の差し戻しなどの作業を進めている最中です。アクアソイルの入れ替えや、底床栄養素の追加を行ったことで、企画展開催中は自然水景の水草たちも再び生長の最盛期を迎えていくことでしょう。盛んに光合成する水草の美しい姿や、水の透明感を通じて、自然水景の呼吸をぜひとも感じていただきたいです。

vol.06

INFORMATION

呼 吸
で
めぐる、水族館
2021.12.9^月 - 2022.2.28^月

Workshop 1 夜の水族館で、呼吸を深める「ヨガ体験」
Workshop 2 お持ち帰りでき、ご自宅でも楽しめる「ミニパルダリウム制作」
Workshop 3 水景クリエイターが解説する「自然水景」ツアー 協力:株式会社アクアデザインアマノ

すみだ水族館 | BY ORIX

世界水草レイアウトコンテスト IAPLC 2021 作品集

IAPLC 2021 作品集

今年は歴代最多の応募総数2,617作品（参加国と地域数84）があり、作品集ではその中から上位2,000作品を掲載しています。コンテストの審査傾向を知るだけではなく、水草レイアウト制作のアイデア集としてもご活用いただけます。



- グランプリから2,000作品を掲載
- 審査方法と評価基準を詳解
- サイズ/W220×H297(mm) A4変形判
- 全160ページ(モノクロ32ページ)
- 1,500円(税込)※お近くのADA販売特約店にてお求めください。



Published by
株式会社 アクアデザインアマノ
<https://www.adana.co.jp>

Printed by
株式会社山田写真製版所

STAFF CREDIT

AQUA DESIGN AMANO CO.,LTD.
©2021 Printed in JAPAN

Publisher 天野 しのぶ Art Direction NATURE AD DESIGN Design 丸山 悟司／市川 亮／高遠 将史／板橋 広夢
Editor 杉本 俊輔／水野 貴仁／亀山 喬史郎
総監修・大岩 剛／写真監修・阿部 正敏

アクアジャーナルの情報は一部、
ADAホームページで公開しています。

NEXT AQUA JOURNAL FEBRUARY.2022 vol.316 / 2022年1月10日(月)発売予定



IAPLC2021 World Ranking 1



IAPLC2021 World Ranking 2



IAPLC2021 World Ranking 3



IAPLC2021 World Ranking 4



IAPLC2021 World Ranking 5



IAPLC2021 World Ranking 6



IAPLC2021 World Ranking 7

Connect with the world セカイとつながる

I A P L C 2 0 2 2



世界水草レイアウトコンテスト2022

APPLICATION PERIOD

2022.04.01^月-2022.05.31^火

GRAND PRIZE JP ¥1,000,000- Free application fee

応募期間 2022年4月1日(金)-2022年5月31日(火) グランプリ賞金 100万円 出品料無料 www.iaplc.com

共催専門誌 Cosponsored by AQUA JOURNAL(Japan) / AQUA LIFE(Japan・South Korea) / AQUAmag(France) / AquaNet(Chinese Taipei) /

aquaristik(Germany) / Practical Fishkeeping(Great Britain) / The Aquatic Gardener(U.S.A.) / TROPICAL FISH HOBBYIST(U.S.A.) / The Fishkeeper(South Africa)

IAPLC公認コンテスト
CONTESTS



CONCURSO
BRASILEIRO DE
AQUASCAPING

EAPLC®

INDONESIAN
AQUASCAPING
CONTEST



The
TGIAC
Great Indian
Aquascaping
Contest
2022

THE SOUTH AFRICAN
AQUASCAPING CONTEST
2022

ADA
Aqua Design America